

令和5年度京田辺市大学連携地域貢献研究事業実績報告書

●研究課題名 同志社大学におけるアントレプレナーシップ教育に京田辺市の地域課題解決を埋め込むための教育方法および教材の開発

●研究者名 同志社大学商学部 教授 太田原 準

●研究期間 令和5年4月1日—令和6年3月31日

●研究の概要（背景・目的等）

同志社大学におけるアントレプレナーシップ教育に京田辺市の地域課題解決を埋め込むための教育方法および教材の開発

●研究の内容（方法・経過等）

アントレプレナーシップ教育は、大きく座学と実習に分かれるが、本事業は少人数クラスによる実習型のプログラムである。京田辺市の「研究ニーズバンク」に掲載されている現状と課題の多くは同志社大学の学生によるソーシャルアントレプレナー活動によって解決可能と思われるが、従来型の学生プロジェクトは単発的なものであり、継続的に京田辺市の地域課題解決にコミットするための学内体制、教育方法および教材の開発は未着手の状態である。もし同志社大学におけるアントレプレナーシップ教育に京田辺市の地域課題解決実習を恒常に埋め込むことができたならば、大学が立地する自治体としての魅力と優位性を長期的に高めるための知的インフラとなると考えられる。

●これまで得られた研究の成果

本事業が京田辺市の地域課題・行政課題の解決に寄与する仕方は、複数年度にわたって段階的である。令和5年は実験授業における実習を通じて、京田辺市の掲げる地域課題に対して学生のアイデアによる実装可能な下記4本のソーシャル・ビジネスプランを提示することができた。

- ・動け子ども食堂：子供はもう卒業！
- ・たなべ de たのシネマ
- ・一休寺 秋の謎解きイベント
- ・十菜十色教室

これら学生によるソーシャル・ビジネスプランは、2月13日に京田辺市中央公民館で最終

報告会として市民団体や市役所職員の前で発表され、好評を得た。学生、市民、市職員との意見交換、交流がおこなわれただけでなく、提案書のHPや広報誌への転載を通じて、地域活性化の具体的なアイデアが共有されると幸いである。

●具体的データ等

別途資料参照

●研究を通じての自己評価

本プロジェクトにおいてアドバイザーを務めた秋山理二郎氏（株式会社第弐表現）が、令和6年度以降、学校法人同志社のローム記念館プロジェクトにおけるプロジェクト導入教育（PPP）の講師となり、継続して京田辺の地域課題の解決アイデアを立案するプログラムを実施することとなった。これにより本法人（大学、女子大学、国際高校）のアントレプレナーシップ教育に京田辺市の地域課題解決を埋め込むことが実現されることになった。総じて、本事業により、同志社大学のアントレプレナーシップ教育と京田辺市の間に、単発プロジェクトを超えた地域問題解決のための継続的な連携と交流体制を構築する一助となり得たと評価している。

●その他

●研究活動中の写真

フィールドワークの様子1（2023.11.29）



フィールドワークの様子 2 (2023. 11. 29)



フィールドワークの様子 3 (2023. 11. 29)



成果報告会の様子 (2024. 2. 13)



成果報告会記念写真 (2024. 2. 13)



以上